



2013年4月1日 あいとぴあ 40号
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 土田 恭義
 所在地 町田市相原町 597-56
 電話 042 (774) 2982
 印刷 木村印刷社 042-771-9985

『あいとぴあ 40号』に寄せて

相原まちづくり協議会理事長 土田 恭義



相原まちづくり協議会が地域にお住まいの皆様にご愛読いただいております地域情報誌『あいとぴあ』が、おかげさまで本誌で40号を迎えることが出来ました。

4月ですから創刊から丸19年が経過したことになります。その間、JR相原新駅舎、相原中央公園、こどもセンターぱお、そして大戸踏切立体化事業と相原駅周辺整備、等、少しずつではありますが確実に相原町は変貌しつつあります。これからも、我が街相原町の、安心・安全そして住み心地の良いまちづくりを目指し、地域の皆様のお役にたつ情報をたゆまずタイムリーに発信してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

振り返ってみますと

あいとぴあ第1号が誕生しましたのが、1994年の

相原駅西口広場と周辺道路の工事状況について



相原駅西口広場の仮工事は3月終了して広場全体の概要と仮歩道部分が見えてきました。平成26年度末の完成を目指して引き続き電気関連の地中化工事、排水設備や接続道路の工事が行われます。堺853号線(諏訪神社参道に接続)から3・4・49号線(八千代銀行)手前までの仮開通については

電気関連の地中化工事の進捗状況から当初の計画より遅れています。現在、歩道部分、外灯や交通標識の工事がほぼ完成している状況です。



第15回まちづくり講演会が開催されました

2012年12月2日相原まちづくり協議会主催で堺市民センターにて行われた。当日は相原在住の石坂隆氏 松日楽正敏氏 吉野光章氏 3名の方と町田市観光コンベンション協会の徳尾和彦氏、町田市産業観光課の牛腸哲也を講師に招き、相原の

歴史を訪ねて・若き世代への伝承をテーマにご講演頂きました。町田市の方からは相原発展に役立つ観光と言う視点からもお話を頂きました。以下に一部分ですが内容をまとめました。また当日ご入場頂いた皆様に御礼申し上げます。

明治10年頃の相原は・・八王子から生糸運ぶ交通の拠点として町田の中で1番人口が多かった。344戸1559名の方が住み町田人口の1割以上を占めていました。

美林あたりまで数多く見つか瓦などを作り大変栄えていたと思われます。バス停の名前(小山が丘のまぢや)にも当時のなごりがあります。

明治41年には・・横浜線が開通し八王子から横浜まで9つの駅ができ中でも相原は積み出し量が多かったようです。トンネルの工事中には平安時代の登り窯が見つか山傾斜を利用し現在の桜

地名の相原は・・平安時代武士が勢力を付け始めるころ、相原には武士集団横山党の藍原氏が住んでいたのが地名の由来と言われています。小山も現在の小山が丘に小山氏が住んでいました。

2ページへつづく

諏訪神社は・・・1180年の相原は農作物が不作で病気が流行したので、あるお坊さんが諏訪の神社に行き1181年に相原に諏訪神社を建てました。

町田街道は・・・鎌倉幕府の大きな仕事が道路整備でその1つが境川に沿ってできた山の道で、これが大体现在の町田街道です。

清水寺・長福寺は・・・青木家7代目の方が、江戸の職人を連れてきて建てた大変立派なお寺です。また相原にはたくさんの遺跡や土器などがあり大昔から相原は多くの人々が住む良い環境だったのではないのでしょうか。



や公園を利用して環境に配慮した観光でエコツーリズムと言い小笠原諸島などは代表的です。いま広がっている言葉にフットパスがあります。フットパスとは、あるがままの自然や小道を楽しみ地元の方との交流をしながら地域振興につなげてゆく取り組みです。また街道観光と言う視点もあります。観光とはその地域の本質、残したいものや伝えたいものを掘り下げ地域に眠る記憶を感じてもらうのが大切です。九州の湯布院の取り組みは、目先にとらわれず守れるべきものを守り、そこに暮らす人々が地域を愛する気持ちを大切に、計画的に進めた代表的な成功例です。

今後のあいはらでの観光課の取り組み

現在、観光庁で観光地域経済調査を行っています。町田市では相原地域を含む旧境村を対象に来年には調査結果が出てきますので、貴重な資料なると思いき楽しみにしています。またそのような地域に選ばれたということは観光の可能性のある地域ではないかと思えます。町田市の取り組みとして、まちだ未来づくりプランを2021年度までの10年間で進めていきます。その中で観光に関しては、町田市新5カ年計画の中で観光プロモーションを目標4地域で展開し、その1つが相原地域です。また観光交流センター(案内所機能等)現在は小野路で進めています。次は相原にと考えています。今年度は道標の整備に取り組んでいます。



地名にみる相原・・・明治時代町田市域格村図縮集 相原村図 明治6年に行われた租税制度改革により相原は境から大地沢まで47の字に統一されました。各地名には太陽信仰や地形、農耕作業、地域の産物など生活に密着していたことが読み取れます。

昭和の時代 戦前から戦後の相原・・・相原小学校建設には先祖が残した大地沢の共有林が役に立ちました。関東大震災では4人亡くなくなりました。戦時中は相原の人口約4000人のうち20代から30代の方約530人に招集令状がきて約89名の方が戦死しました。農業は牛豚鶏を飼い堆肥を作り作物を育てました。米を作るために取水に工夫をして水田を増やしてきました。戦後の写真にその様子が残っています。また保善会の事業で境川の源流、大地沢の整備も進み是非皆さんにお越しいただきたいと願っています。

人が訪れるまち相原への展望その可能性と課題

2000年以降ニューツーリズムの流れがあります。新しい観光と言う意味でその中で相原に関係するものでグリーンツーリズムがあります。これは里山



相原中央公園の駐車場が昨年12月から有料になりました

これは町田市立公園条例の一部改正によるものです。利用料金は、公園の有料施設利用者と無料施設利用者で若干の違いがあります。料金は下記の通りです。無料施設利用者は1時間30分が無料です。

散歩や子供とのふれあいにぜひ今までどおり利用しましょう。



公園内の有料施設を利用する場合

利用時間	料金
30分まで	無料
1時間30分超～2時間まで	100円
2時間超～9時間まで	30分ごとに50円を加算
9時間を超える場合	最高800円

公園内の有料施設を利用しない場合

利用時間	料金
1時間30分まで	無料
1時間30分超～2時間まで	50円
2時間超～2時間30分まで	150円
2時間30分を超える場合	30分ごとに50円を加算
9時間を超える場合	最高800円

・ ・ 研修旅行 ・ ・

相原まちづくり協議会では、毎年各地域のまちづくりの視察と会員の親睦を兼ねて研修旅行（私費）を行っています。

今年度は任期満了の3年目にあたり1泊2日の日程で東北の被災地をたずねました。目的地の宮城県亘理郡山元町に到着したとき目にした、ただ原っぱがどこまでも続く想像を絶する光景に全員がこの研修旅行の意味を再認識しました。

案内をしていただいた地元中学校の元校長佐藤さん（現在はボランティアで震災の語り部をされ

ています）から『以前はここに駅や商店や工場がありました。みんなが行きかいにぎやかでした』の言葉がなければまったくわからない状態です。それほどに巨大な津波は全てを流してしまっただけです。最後に佐藤さんは「もう救援物資はいりません。時間がたつにつれだんだん被災地にたいして関心が薄れ忘れられてしまわないかが心配です。

どうか皆さん今後とも震災の事、復興に向けがんばっている事を忘れないでください」との言葉に全員感じるものがありました。

JR常磐線 山下駅前。写真左は駅のホームです。



グループホーム町田相原オープン

一般財団法人相原保善会（理事長：青木悠）は資産の有効活用として、中相原にある財団所有地に「グループホーム町田相原」をオープンしました。実際の管理運営は専門の「メディカル・ケア・サービス」が行います。グループホームは正式に



は認知症対応型共同生活介護と呼ばれる介護事業所です。1フロアに最大9名の方を対象に認知症ケアの専門的な関わりを行うところです。居室は個室で共有スペースに台所や居間・食堂が設けられています。グループホーム相原町田は2階だてになっており、2ユニット18部屋が造られました。3月15日から実際に入居が始まっています。料金的にも非常にリーズナブルですし、出来るだけ地元の皆さんにご利用いただければとスタッフの皆さんは張り切っています。

入所資格等については・・・電話：042-783-8100
携帯：080-4815-5187へお問い合わせください。
（相談担当：相川未来）場所は町田街道相原十字路から大戸方面に歩いて2-3分です。

夕焼け小焼け誕生から 100 周年 2019 年に向けて

相原は中村雨紅の童謡夕焼け小焼けのゆかりの地です。本名は高井宮吉といひます。大正 6 年に南多摩郡堺村(相原町)中相原の中村武造氏の養子となりました。中村雨紅のペンネームの「中村」は、この時から使っています。

中村雨紅は大正 6 年(20 歳)から大正 12 年(26 歳)まで中村家の養子でした。「夕焼け小焼け」の発表は、大正 8 年(22 歳)ですから、相原町に戸籍のある時です。

町田市が「ごみの資源化施設」説明会を開催

町田市では、現在の下小山田町にある町田市リサイクル文化センターの老朽化に伴い、2011 年 4 月に一般廃棄物処理の基本となる「町田市一般廃棄物資源化基本計画」を策定しました。この計画を踏まえ、2011 年 5 月から「町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会」を組織し、施設の計画及び建設候補地の検討を行い、2012 年 11 月に町田市に答申しました。これを受け、この度、町田市として新たな「ごみの資源化施設」の内容及

び建設地を選定しました。(広報まちだ 2/21 付)。相原エリアでは資源ごみ処理施設 1 箇所が計画に盛り込まれ、3 月 2 日にゆくのき学園第 2 体育館にて、建設予定地の大戸・武蔵岡地域での住民説明会が開催されました。今後町田市として相原町全体への説明会を経て建設予定地域周辺にお住まいの方々と協議体を組織し、2020 年度の運転開始に向けて検討を重ねていく計画とのことです。

諏訪神社平成の大改修

諏訪神社では老朽化著しい社殿をはじめ手水舎・玉垣・石垣等境内地の大改修整備を行っています。本年元旦より氏子崇敬者の皆様に広く奉賛金をお願いしました結果、現在までに約千名様のご協力を頂戴いたしました。御奉賛頂いた方々に厚く御礼申し上げます。7 月末日の竣工に向けて日々お宮の景観も変わっております。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。尚竣工の日まで奉賛金は受け付けております。今後とも御協力の程よろしくお願い申し上げます。

諏訪神社 宮司



「高齢者あんしんキーホルダー」をご存知ですか？



このホルダーは、高齢者の氏名、住所、緊急連絡先などの情報を担当する地区の高齢者支援センターが登録・管理し、万が一外出先で突然倒れたり、事故に遭遇し緊急搬送された際に迅速に御本人の住所・氏名・緊急連絡先などの確認が行える

ようにするものです。

搬送先の病院や保護をした警察などが、高齢者支援センターへ連絡し、高齢者の登録状況をお伝えする事ができます。このホルダーは 1 個 200 円で申請できます。町会の集まりや市民センター祭り・相原ふれあいフェスタ等でも相談できるよう考えています。相原地区の高齢者支援センターは中相原のサンシルバー内にあります。

お問い合わせ先・電話 042 770 2558
堺第一高齢者支援センター 相原町 2373-1

『あいほら “生活” マップ』正誤表記載ミスがありました。謹んで訂正いたします。ご確認ください。

1 頁目；施設別早見表 4 . 医療施設 キッズクリニックの「エリア欄」

誤：『陽田・中村 B - 5』 正：『丸山・丸山団地 E - 5』

7 頁目；区分地図(陽田・中村地区)の C 5 ブロック誤：『最上興産不動産』

正：『最上興業不動産』